

中西輝政著「日本が知らない世界と日本の見方」PHP 研究所 2011 年 10 月 4 日刊を読む

「第三グループ」では生きていけない

1. 21 世紀の大国による新しい秩序がだんだん形成され、アメリカという超大国と第二グループの他の大国の差はだんだん詰まってくる中、日本の位置はもう第三グループに入りつつあります。もっとも、「それもまたいいではないか」というのが、自民党であれ民主党であれ、いまの日本の政治家の大半の国家ビジョンです。お隣の韓国、あるいは東南アジアの国々は、さらにその下の、いわば「天井桟敷の観客」としてしか参加できない。それよりはいいだろう、というわけです。
2. 私は個人的には、そうではない。大国同士で猛烈にせめぎ合っているいまこそ、チャンスです。日本がこのままでいいはずはありません。日本はアジアでは中国をバランスする国でなければならないし、世界に対しては人権や民主主義といった普遍的な価値観を旗として掲げていく国でなければならない。つまり「つねに一番をめざす」という心意気をなくしてはならないと思います。
3. さらにアメリカに守ってもらおうといった依存体質から着実に脱却していった、宇宙開発にしても自分で独自の GPS システムを持つために多くの人工衛星やスペースシャトルを打ち上げ希望を持って世界の頂点をめざす国でなければなりません。他の国の宇宙船に乗せてもらって内中へ行くというのは本来、第三グループ以下の国のあり方です。大国は皆、自ら宇宙船を打ち上げています。
4. これは大変厳しい道です。それをやりつづけるのか、あるいは大変だからと放棄してしまうのか。日本はいまこの分岐点に立っているのです。あくまで第二グループに留まりつづけようとするのか、それともその地位を放棄して脱落するのか。もし放棄する側を選ぶなら、サミット開催などやめたほうがいい。お金がかかるだけです。どのみち日本の声など届きませんから、アメリカかイギリスに頼んで日本の主張をサミットで代弁してもらおうほうが賢明です。
5. 第三グループでよいのなら、国立大学も、こんなにたくさん要りません。科学技術だって、みんな外国からもらえばいい。多くの分野で日本独自に科学技術水準を上げる努力は必要ありません。そんな科学技術予算があるなら、後期高齢者医療などに回せばいい。
6. あるいは少子高齢化だって、それほど心配する必要はありません。人口が減っても、とくにかまわない。一億何千万人も人口というのは、列強つまり大国のサイズで、第三グループでいくなら、もっとスリム化したほうがいい。実際、少子高齢化については、そういう議論もあります。
7. ただ日本は、そんな道を生きることにはできないと私は思っています。日本はやはりアイデンティティ、文明、精神構造の独自性が「大国側の国」なのです。たどってきた歴史、東アジアに君

臨する帝国であるという古代の日本、『古事記』『日本書紀』の中に描かれている日本は当然、「大国側にいる日本」のイメージです。「日出ずる処の天子、書を日没する処の天子に致す」と書く国なのです。

8. いまから千四百年も前に、自分を超大国と考える国に対し「お前も俺も対等だ」と胸を張り、「あなたのところは日の没する国です。われわれは日出づる国です」と皮肉までいって、立派な外交をやっているのです。
9. 第三グループで満足できる国には、こんなことは到底できません。中華皇帝の前に這いつくばって三跪九叩頭さんきゆうこうとうの礼れいをやるしかない。いま日本はワシントン相手にそれをしていて、今度は北京相手にそれをしてしようと考えるはじめている。しかし日本は本質的に、そちら側には死んでもなれないのです。なれるなら、すでにアメリカの 51 番目の州になるか、アジア共同体の中に溶け込んでいます。
10. 日本はアジアでも西洋でもない、世界の七大文明の一つだと私は思っています。中華、ヒンズー、イスラム、キリスト教といった世界の大文明圏に対抗してきた文明がある日本は、大国側に入るしかない。それが運命なのです。
11. もちろん、それは大変です。だからこそ政治家は「弱者に優しい日本」「少子高齢化に対応できる日本」「安心の社会保障を備えた日本」などといい、かつての大国から、その他大勢のほうに逃げようとしている。つまり第三グループのほうへ脱落しはじめているのです。
12. しかし数百年、一千年という単位の文明史的視野からいうと、やはり日本は先に述べた世界の三重構造の中で「大国の側」に入るしかないのです。
13. たしかにいま、日本の命運は、すべて自分で決めることはできません。たとえば決定的なのは財政問題で、財政は国際金融市場に依存します。日本の財政は、長期金利が 2 パーセント上がると崩壊します。原油が 200 ドルにならなくてもお終いです。
14. また原油問題でいえば 2008 年春頃、日本は暫定税率問題に絡んでガソリンが 20 円安くなる、ならないと大騒ぎしましたね。円高や原油高を何とかしようと国際政治上の努力はせず、国内で選挙のための党利党略が絡むと 20 円をめぐる右往左往する。自己統治能力が完全に欠如していて、こんな状態では、日本はとてども大国の地位を保つことはできないでしょう。そのための意志や意欲さえなくしつつあります。ここが、日本の一番決定的な危機でしょう。

P183 ~ 187

[コメント]

日本は今どこに立っているのか、日本はどこを目指さなければならないのか、これほど明確に我々の進むべき道を示してくれる先生はいない。現実から逃げることなく、列強に残るため歯を食いしばってがんばろうではないか。

— 2011 年 9 月 30 日 林 明夫記 —